特42
456

訂正

觀世流謠曲百拾番

志賀

44

志賀

道ちゝ御代の花見月　都は
長閑さ　杉見ハ當今よ住人
りら居下也備も江州志賀ハ山橋
べうと藏成由所名ハ猶よ吟今志か
ハ山路へと急ハウ春乃色たゝひく
そ乃明ほ〜をウ〜のゝけさ門の音

羽山さへ越るれハ見えそこのかりよ也
志賀の山こえや湖遠さ讃めかりく
平ノ
急ぐ程よ江州志賀の山よあそへハ
聞此所よりそ花を詠よまするそハ
一セイ
さゝ浪や志賀の都のなをとめて昔
なからの山桜 まことよあはれ也や心
なき我々も情の残る陰 山路よ

白雲ぬ起手牧笛の聲人問萬らず
樵くの斧をわすりゆくかゝる桜あ
ことよきくる眼の前なりの数よや
送りぬ 餘りよ山をまく詠めてを
文跡を立つまく 入つるすも白浪
岩ゞ谷の门やと雨の夕ゆえて
松の風もれ苔やあやまたる半

目の客堂あらしもへ今身のよゝ志て
なりけり　ワキ詞　いかにや是成山賤
をそれハ重かるへき薪に花の枝を
折そへ休むも花の陰なり是ハ
心ありて休むか唯薪の重さに休むや
まうしゝ　シテ詞　仰畏く負ひぬる薪に
花を折ハ道の辺のたよりの桜
折そへて薪や重きと山人へと問ふ
人も御不審有しへ今更何とか答
へやせん　ワキ詞　又奥深き山路あれハ松も
桜も多かれど何か花の陰に休
むを　シテ詞　唯薪の重さに休むその
仰ハ面白き御尋かな　二人セ　去なから彼黒
主か哥は其様賤しき山乃

の薪をおひて花の陰に休めるが如し
実とも見ず其才は寂きぬ摂過也けり
殊へや上篇より 一ことの中に増るを
をうらやまれぬる物も賤しきを
よおほ人のときまくき識なりきやと
やうしくも古歌のたとへの心をとりて
そへられを答やむ いやしく古言の

たとへとや謂ふも実つきぬものあれ共
ば必しき才ある思ふよりて 猶大伴
は黒主が心をよせする君の後 和歌に
うらむるをしはまよ かくきとへりて世
證の それは黒主 是は識よ さは
と賤しき 山びとの 才は應きぬ
やあまきもけるさせ之殊へ歌人中に思

ものよ花の陰よ休まん　ぢうやしとなるも筆
をそめて貫之　うぐひすの巣のかをりの
うらぶれ　古今の道とりやく　それ
ひとつの時代を寿ぐ　道長の
代は古へ國を惠む民をまもる　萬機の
まつりごとを治めたまふ　多くは其
時よまつりごとの道さうしまして皮

今は漁子を撰びこの三位六子仙を始め
してぞおのおのの筆のひび
ひろり　材よきの楽の露の
色よりもいとよ　うぐひすの心ぞ花よりやや
クセこそ　うぐひすの　ことわる迄の情うや
ヤヲ　杉　殿　律　法　香山の陰ひとつ山の
井　あぐらい　引　思ふ　ゆ

若葉する色あれやうに深れる苔所どころ数多
きこの塔の心の色は花のみ書きしるしも
や敷鳴の音方代のきてけうひ
給れハ三十一文字のおのれ守護し給
て無見頂相の姿も感應られ給へ
ハ君と共に萬民時を楽うてどと
因備乃雲の志海ハ鳴の音返も

ゆの色萬歳の鶴ハ人をとうきを
ハ人うきうきハ代ひさうの方ハまう
こと道直ハ高うひの東南ハ雲消う
西北ハ数うく成ぬ雲のもやさうひ
や若き常盤の山松乃ぢまいさうこ
色を見ハ私子の泳よるへやハ天
地を動う冥神を感をあひとうや

吉野北

うらやましの山路入りて家路いそぐ

未家に帰りて心成るべし　今宵行

きつむへきいと長き大伴の御津を

いそれ代にて此山の部入りや

こゝに此山の神そとばまき

や拙大伴　それ誰か家の名共

北　上句北

大伴　我いかに　新おもきあり

し獨路の花の陰よりあり休らつる

そらゆとゞ雲よ立かくれ志か

ひ　やちよ海りきもし　早上句　いときたく

玄人山ゆまりよまるゝ　ぞ言ふ

あまの花の陰月よ隠てあ夜の原

時の間よりうるおる　舞歌に拝社

おもしたあれ　雲あるそいく

ゆひ袖をたちかへすきの
志賀の山ぢ初しぐれ
去めくをこの海の志賀辛崎の松
風吹ぬ音のみ聲のまれのけさよ海
こゝよりぞ見てうれしき山ぢ
めるまを待うの
志賀芸 寺 神乃たちやかまくを

それを考うんぞ

三月十三日 上吉表

ぶりや神楽乃まひ舞 上 きの為りつる
山人乃ゆく新年乃永き日を踊る
和光乃為のさよ 寄せ借せ 君
代乃ゆきの色や去乃花芸 蔵
新乃ゆきの色や去乃花芸 蔵
まりる豆為ハ 也 心をよ
寄せて去の風ぶ色もそよなり
神神楽乃 小 三 日の夜れ乃ゆく

花ゑこゝもとおれし白和幣　松ゑ

首和幣かゝれおやうつる屋あつさゆゑ

髪入乱遠をさくしられ遠てをりあ

ひちる花の雲の八袖をそゝつく

くれ茅の市袴の拍子

をそろへて外かくまる面白き

かぶくられく

右之本者觀世太夫織部以章句

眞本令版行畢

天保十一庚子歳孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

旧　山本長兵衛

明治廿六年二月十七日印刷

明治廿六年二月同日訂正出版

明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

東京市麹町區飯田町四丁目壱番地

宮内省御用達

訂正者　觀世清廉

京都市上京區三条通御幸町西一番

發行者

兼印刷者　檜常之助

板權所有